R1年度　大阪市文化振興事業

資料10－1

基本方向A「文化創造の基盤づくり」

①「芸術文化を創造する人材、支える人材の育成・支援の充実」

事　業　名	実績・評価
芸術活動振興事業 助成金	【事業実績など】 ・申請件数 一般助成：上期64件／下期84件　特別助成：45件　合計：193件 ・交付決定件数 一般助成：上期54件／下期70件　特別助成：28件　合計：152件 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・担当職員が、申請があった事業のすべてについて詳細を把握しており、アーツカウンシル委員の審査を適切にフォローできる体制となっており、評価したい。 ・委員等が現場を数ヶ年かけて視察することで、西洋の芸術観に捉われない大阪らしい多元的な価値の気づきを現場と行政の双方にもたらした。たとえば、アートと産業の連携による都市格の向上、多様な人々が芸術活動に参加することで誰もが暮らしやすい社会を作るなど助成事業の成果（アウトカム）を定性的に確認できた。 ・アウトカムの指標は、できれば職員・委員の改善目標と因果関係がみえるものが望ましい。
咲くやこの花賞 受賞者等支援事業 咲くやこの花賞	【咲くやこの花賞受賞者等支援事業実績など】 ・「咲くやこの花コレクション」吉田蓑紫郎のバックパッカー文楽世界をゆく（R1.11.25大阪倶楽部ホール）　ほか5プログラム 【咲くやこの花賞実績など】 ・贈呈式：R2.2.12　大阪市中央公会堂 ・受賞者：(美術部門：現代美術)笹岡由梨子　(音楽部門：ヴァイオリン)松浦奈々 (演劇・舞踊部門：歌劇)桐生麻耶 (大衆芸能：講談)旭堂南龍 (文芸その他部門：小説)今村夏子 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・これらかの大阪の文化を担う咲くやこの花賞受賞者のステップアップとなる活動支援と、市民の芸術体験の機会創出の双方を実現できる事業が継続して行われていることを評価したい。 ・事業の良さが引き出された事例として、昨年度受賞者の落語家・笑福亭喬介の単独公演を初めて実施することにより、受賞者のステップアップとなるとともに、若い落語家の実力を市民が知る機会ともなった。若手芸術家の支援策として高く評価できる。 ・局事業での連携がある一方で、区役所事業や地域の取り組みとの連携がなかった点は今後の課題である。咲くやこの花賞受賞者が、広く市民から愛される機会となれば、この賞はより良いものになるだろう。 ・認知度向上については、HPやSNSの活用で工夫をし始めており、その効果を検証しながら、引き続き認知度向上に努めて欲しい。
大阪文化賞 大阪文化祭賞	【大阪文化賞実績など】 ・受賞者：豊島　将之氏（将棋棋士） ・授賞式：R2.2.12　大阪府公館　大サロン 【大阪文化祭賞実績など】 ・受賞者 【第1部門】仮名手本忠臣蔵 九段目　山科閑居の段　出演者ご一同：「十一月文楽公演」の成果 【第2部門】南河内万歳一座：「～21世紀様行～唇に聴いてみる」の舞台成果 【第3部門】K★バレエスタジオ：「33回メモリアルコンサート」の成果 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・どちらの賞も、成果を公的に認めらる貴重な機会で受賞者と芸術文化関係者の今後の活動を勇気づけるものである。 ・市民にとっては、文化に詳しくなくとも、その年の大阪文化の優れた活動を知れる貴重な機会であり、この二つの顕彰事業は重要な活動である。 ・文化賞のチラシを改善したが推薦者数はあまり増加しなかった。まず、推薦者数の推移を把握し、現状の見える化をすべき。また、文化に興味がある市民等にどのような形態ならば推薦しやすいかヒアリングを行い、対策を考えるのはどうか。
三好達治賞	（事業実績など） ・贈呈式：新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から延期 ・受賞者：佐藤　モニカ氏　与那覇　幹夫氏 ・応募件数：216作品 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・贈呈式とポスター展の延期は残念だか、15年間の予定で行ってきた三好達治賞の15回目を、丁寧に行えていることを評価したい。 ・次年度は、これまでの活動をまとめる冊子を作る予定とのこと。予算に限りがあるだろうが、意義ある活動であったことがわかるような詩のアンソロジーとしても読みごたえがあり、市民が愛着を持てるようなものを作って欲しい。

織田作之助賞	【事業実績など】 ・贈呈式　新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止 ・受賞者及び受賞作品 　織田作之助賞：窪　美澄氏「トリニティ」 　織田作之助青春賞：丸井　常春氏「檻の中の城」 　奨励賞：楊　美裕華氏「ざまぁおぼろげ」 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・今年度よりU-18賞と青春賞が一体化され、18歳以下にスポットが当たりにくくなるかもしれないと思われたが、結果的に18歳以下の優秀な作品に新たに「青春賞奨励賞」を顕彰しており、賞を統合したものの18歳以下の若い世代の文学活動もフォローしており評価できる。 ・また、大学連携による公開講座の取り組みも学生と市民が共に、日頃聞くことができない作家の話を聞く機会となっている。 ・本顕彰は、大阪の文学の魅力を発信している。今後もより広く、公募や受賞に関する情報成果を発信していくとよい。
舞台鑑賞会 （能・狂言・上方芸能）	【事業実績など】 ・能狂言 　「こどもと楽しむ能狂言」R2.2.2　大槻能楽堂：計344人 　「初心者のための能狂言」※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止 ・上方芸能 　「繁昌亭・秋のこどもらくご教室」R1.10.19･20　天満天神繁昌亭：計354人 　「初心者のためのはじめての寄席　繁盛亭NIGHT」　※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止 　「繁昌亭・春休み こどもらくご教室」　※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・青少年が本格的な伝統芸能を気軽に楽しめる鑑賞事業として、しっかりと告知し、参加者を集め、継続的に取り組んでいることを評価したい。 ・広報について公立学校での配布、区民だよりへの掲載、町内会回覧板等、努力している点を評価する。今後は、すべての青少年に本物の芸術鑑賞機会を持ってもらうためにも、私立学校への案内や、保護者が仕事等で忙しく参加しにくい子どもも来れるような運営も心掛けるとよい。その際に、毎年重点ジャンルを絞り取り組むと良い。 ・新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のために事業中止があったことは大変残念。青少年らの「芸術文化に親しみたい」という思いを受け止め、継続的に実施するとともに、内容や運営方法をよりブラッシュアップしていくとよい。
舞台鑑賞会 （演劇）	【事業実績など】 ・「はじめての京劇 孫悟空 天界で大暴れ」　※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・広報の強化、ターゲットの明確化及び公演会場の選択肢を広げたことにより、応募事業者が増加したことは評価できる。次年度についても同様の方針で実施されるとのことであるので、不採択であった事業者にも声がけをするなど、応募事業者数の維持に努めて欲しい。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、実施（上演）できなかったことは残念であるし、事業実施による効果が評価できない。ただ、採択された京劇は大阪市内において鑑賞機会が多いとは言えないジャンルであることから、新たなジャンルとの出会いの場になる可能性があったといえる。次年度については、無事に事業を実施できることを期待したい。

②「芸術文化を将来へ継承発展させる青少年の育成」

事　業　名	実績・評価
中学生が参加するコンサート	【事業実績など】 ・「はじめましてオーケストラ」※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・新型コロナウィルス感染症の拡大防止のために中止になったのは残念である。 ・事業目的達成のためには、現在の発表者という立場に加えて、未就学児とその保護者に無料シートの提供や障がいのある人に来やすいと感じてもらえる企画の展開など鑑賞者の立場も考慮してすすめてはどうか。 ・大阪府による管楽器クリニックをメインとした音楽事業が抜本的に変わる予定だが、今後も情報収集をすすめ多様な事業者提案のきっかけとなるような体制づくりに取り組むことで、事業のブラッシュアップにつなげ、将来より良い事業となっていくことを期待したい。
区と連携した芸術文化青少年育成事業	【事業実績など】 ・「伝統芸能を体験してみよう”能・狂言”」（北区）ほか１７区で実施 ・【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 3年計画の最終年、のべ19区が行い、16区がなんらかの形で継続することになり、当初の各区の個性を生かした青少年に良質の文化体験をすることを目的としたスタートアップ事業の役目は、おおむね果たしたといえる。 ・本事業は終了するが、次年度以降も情報提供や相談、意見交換会等を継続し、区のおける芸術文化の推進を図っていくという姿勢は、各区の文化事業を取りまとめ、相互の交流の場を設け、よりよい文化事業を、より市民に近い区を通して行える環境整備という点で、非常に評価できる。この事後の姿勢は「〇〇ネットワーク」等の名称をつけ、担当が変わっても内容を引き継ぎやすいように顕在化させるとともに、地域文化事業等の枠でフォローアップしていくと良いだろう。 ・本年度事業事例集は、次年度の意見交換会時に配布するとよいだろう。また意見交換会には、実施しなかった区、あるいは継続しなかった区の担当者にも声掛けをして、各区への情報提供が平等にいきわたる工夫が必要であろう。

③「芸術家等が活動に取り組みやすい環境の整備」

事　業　名	実績・評価
芸術創造館管理運営	【事業実績など】 ・演劇練習室稼働率77.1%　音楽練習室66.4% ・自主事業　芸創講座（専門講座）13回、芸創テク（インターンシップ）47回、芸創サロン 53件、スタジオライブ 3回、DOORS（ワークショップフェスティバル） 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策があり文化事業開催に困難が伴う中、年間を通しての稼働率等は健闘しており評価したい。 ・演劇や音楽、ダンスのインキュベーション施設の責務を果たすべく、プログラムを実施し、引き続き努力をしている。ただし、劇団などの相互交流等の表現を高め合う機会が充分とはいえないのではないだろうか。 ・前年度に課題としてあげていた大阪市文化事業の連携を、例えば咲くやこの花賞受賞者WS実施などで実現していたことを評価したい。 ・指定管理者公募に向けてマーケットサウンディングなどの現場に必要な情報を調査し、またより芸術活動を行いやすくするような条例改正にも取り組んでいると聞いた。大阪市の芸術文化活動にとって、芸術創造館は重要な文化施設である。同館の事業内容が、より深まり、より多くの市民に届くように、運営環境の整備の面からもを引き続き努力を行って欲しい。

④「貴重な文化資源の保護・保存・継承」

事　業　名	実績・評価
文楽を中心とした 古典芸能振興事業	【事業実績など】 ・文楽公演「中之島文楽」（R1.１０.４～５大阪市中央公会堂）1,115人 ・ミニ公演・文楽に関するWEBフリーペーパーでの情報発信など　約50,000人 ・ＷＥＢアクセス数　約43,000人 ・来場者へのアンケート結果：「次は文楽劇場で文楽を鑑賞したい」と回答した人数約８７％ 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・文楽ファンの裾野を広げる事業であり、工夫を重ねている点は評価したい。 ・コロナウィルス対策による「春まつり文楽」の開催中止は残念であり、今年度スタートのこのプログラムの効果は現時点ではわからないため、手法や対策を精査しつつ次年度に挑戦してその効果を確認して欲しい。 ・文楽協会や技芸員及び国立文楽劇場のキーパーソンとのネットワークができつつあると聞いた。このネットワークを活かして、広報戦略や企画内容等を一つ一つのプログラムごとに行うのでなく年間を通してつながあり、その先に劇場への来場があるというようなステップをイメージしてすすめるとよいだろう。 ・すぐに導入する必要はないが、広報や教育普及の点から、動画配信なども視野に入れ始めても良いのではないか。
〔　舞台鑑賞会　〕 中高生のための文楽 夏休み親子ペア文楽	【事業実績など】 ・中高生のための文楽鑑賞教室　　R1.6月　国立文楽劇場　参加者数：約4,360人 ・夏休み文楽特別公演「親子劇場」　R1.7月～8月　国立文楽劇場　参加者数：約1,778人 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・大阪文化を代表する文楽を子ども達が鑑賞する機会を提供する貴重な機会であり、そのことを十分に周知するために、よりPRの工夫を重ねて欲しい。 ・学校単位の鑑賞は、各学校では毎年ではなく、数年に一度の鑑賞になると聞いた。従って鑑賞時のみ「文楽」に興味を持つのではなく、その前後にも「文楽」を学べるような工夫、例えば教材開発などを行えばよいのではないか。予算に限りはあるだろうが、そうすることで学校現場に「文楽」により親しみ持つ環境が整うだろう。単発で子ども向けパンフレットを発行するだけではなく、例えば国立国際美術館で行っている鑑賞教育プログラムなどを参考にして、段階的に体制を整えていけばよいだろう。
中央公会堂管理運営	【事業実績など】 ・集会室等の利用率　67.5% ・全国的な又は国際的な学会等大阪の都市魅力の発信に資する催しの誘致件数　１２件 ・ガイドツアーの実施、レストランとの連携、ドラマ撮影等のロケ協力など中之島エリア一体の賑わいに貢献 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・中央公会堂が、図書館や美術館が集まる、大阪の文化の集積地である中之島のランドマークであるという意識のもとに、貸館のみならず国際的な学会開催等を誘致にも力を入れて、国際レベルの知識層の認知度をあげることで、一過性の賑わいづくりに留まらない展開をしていることを評価したい。引き続きこのような国際的な学会等の誘致は続けて欲しい。 ・近隣には「子ども本の森」がオープンし、さらに歩行者道路となり、より人々が集まる空間となることが予想される。複数の文化施設がある中之島において他施設とネットワークを活かして情報発信なども行えるとよいだろう。

⑤「芸術文化活動を支える寄附文化の醸成」

事　業　名	実績・評価
芸術・文化団体 サポート事業	【事業実績など】 ・R1年度実施分　対象団体：23団体　寄付金額：7,396千円 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・寄付文化を醸成することで、芸術文化を支えていく発想・着眼点はユニーク。そうした発想を具体化する全国に先駆けた画期的な仕組みとして、評価したい。 ・制度やその趣旨が、市民に十分に周知・理解されず、寄付件数が減少傾向にある。そうした問題点に気づき、対策として、Twitter等SNSを活用するということなので、積極的に取り組むべき。

基本方向B「都市のための文化」

①「大阪が誇る上方伝統芸能を活用した魅力発信」

事　業　名	実績・評価
伝統芸能を活用した大阪の魅力開発促進事業	【事業実績など】 ・モデルプログラムの実施（9回・アンケート等のサンプル数：799名） ・旅行事業者・有識者等で構成される関係者会議の実施（3回） 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・モデルプランづくりの4年計画の3年目として、いくつかの課題が明らかになったことを評価したい。例えば有料プログラムで集客が伸び悩んだ点においては、チケット販売PRも重要なプログラム要素であるとの気づきを得たということなどである。 ・最終年の次年度は、これまでの課題を検討しながら、ジャンルに幅を持たせるなど柔軟なプランとし、可能性を広げて行って欲しい。

②「芸術文化の魅力を、観光資源及び経済の活性化に活用」

事　業　名	実績・評価
アジアン映画祭	【事業実績など】 ・アジアン映画祭（開催期間：R2.3.6～3.15） 上映作品数：58作品（23の国と地域の作品）　・開催会場：梅田ブルク7、ＡＢＣホール、シネ・リーブル梅田　他 ・映画に関する人材育成に寄与する講座・ワークショップ ・プレスセンターを福島区中之島リバーサイドエリアにあるPINEBROOKLYNに設置 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・SNSの打ち出し方の工夫やパンフレットの見やすさなど、今年度は広報が良くなっていると感じた。 ・今回はコロナウィルス対策でイベントはなかったが、今後はイベントも含め、「今年のアジア映画祭は〇〇だ！」といった、全体像や、事業ミッションを見せて行くような姿勢があればなおよいだろう。 ・新たに大阪中之島美術館準備室とコラボ企画をしたことも評価したい。アジア映画祭と現代美術の相性はよく、今後も継続して相互の良い影響がもたらせるはずなので今後も続けてほしい。

③「都市全体を活用した芸術文化活動の展開」

事　業　名	実績・評価
大阪クラシック	【事業実績など】 ・開催期間：令和１.9.8～9.14 ・主な会場：大阪市中央公会堂・フェスティバルホール・御堂筋や中之島地区のオフィスビルのロビー　等 ・出演楽団：大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、日本センチュリー交響楽団　Osaka Shion Wind Orchestra ・公演数：８１公演 ・来場者数（合計）：約40,000人 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・大阪クラシックは、大阪を代表する街中で行われる重要な事業であり評価している。これからも続けられるべきである。 ・秋の風物詩として着実に定着しているものの、新たな層の開拓や人々の意識醸成に向けて、広報の前倒しや街頭でのバナー掲示などによりこのフェスティバルの存在感を「可視化」していくことに力を入れる必要がある。 ・本事業の目的である市民やビジターが、気軽に第一級のクラシック音楽に親しむ機会の提供に取り組むために、パンフレットデザインの工夫やPR動画などにより、今まで来られたことの無い初めての方に情報を届ける方策を考えるべき。 ・各公演冒頭で、出演者が大阪クラシックをなぜしているか目的を説明していることは高く評価している。 ・最終公演でボランティア紹介を行っていることも評価したい。 ・子連れでの鑑賞を拡充するには、子ども向けの曲目の演奏だけでなく、参加型にすると子ども向け公演の充実につながる。 ・集客データ上は「目標人数を達成していない」となっているが、各会場の特性やキャパシティを洗い出して、この目標人数が実態にマッチしているかを精査することが必要。親密な空間やフリースペースでの開催がこのフェスティバルの魅力のひとつにもなっており、「各公演」が何を重視するのか（必ずしも人数の多さだけではないはず）を改めて確認することにもつながると思われる。

基本方向C「社会のための文化」

②「地域の特色ある芸術文化活動への取組み・支援」

事　業　名	実績・評価
地域文化事業	【事業実績など】 ・城東区「JOTO区ラシック―第13回城東区第九演奏会―」　ほか12区で開催 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・前年度改善の通り、フォーマットは異なり網羅的ではないが、参加者アンケートをとり、参照した結果、おおむねリピーター率が高く、高齢者層が多いことがわかったとのこと。また自由記述では実施内容について提案などがあり、受け身ではなく積極的に鑑賞していることがわかったとのことであった。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための事業中止があり残念であったが、実施した事業についてはおおむね満席であったとのことで、各事業が地域に定着していることがうかがえる。 ・長年継続してきた事業も多く、観客層が固定化し、内容もルーチン化していることも推測できる。積極的な層に答えるためにも例えば、コーディネーター等を導入してはどうだろうか。学生インターン等を迎えることで、人材育成の可能性もでてくるだろう。 ・次年度は区連携事業のノウハウやネットワークの蓄積も活用すると良いだろう。
文学碑記念の集い 文学碑維持管理	【文学碑記念の集い事業実績など】 ・「第４０回文学碑記念の集い」（R1.7.6　太平寺） ・参加者数：１３３人 ・出演者：道谷 卓・京山 幸太 【文学碑維持管理事業実績など】 ・中央区「武田麟太郎」碑ほか1件の清掃 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・地域に根差した活動として会場づくりはアットホームな雰囲気がある。一方で、大阪で注目されている若手浪曲師をゲストや、旬のテーマの知識を持つ講師に迎え、文学にまつわる内容に現代的な幅を持たせている。 ・新規来場者も6割あること。今後も、昔ながらの文学碑を大切にする地域に根差した活動であることと、大阪の旬のテーマやゲストを迎えるという、新旧両輪のバランスで行って欲しい。
クラシック音楽 普及促進事業	【事業実績など】 ・「にしなりクラシック～イタリア音楽の調べ～」 （R1.11.23　大阪フィルハーモニー会館　来場者数（合計）263人） ・大阪フィルハーモニー会館　市民利用割合40.5% 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・庶民の街にあるオーケストラハウスの特徴を活かすために、市民向けコンサートと貸館事業を組み合わせており、その方向性に添った内容をすすめており評価できる。 ・引き続き地域と連携し様々なセクションとつながりを創出し、シビックプライドに繋がるようにオーケストラハウスに人が集い活用し、会館に愛着を持ってもらう必要がある。 ・将来的には、年に一回でなく数回演奏会ができればプロのオーケストラの奏でるクラシック音楽に触れる市民のさらなる愛着に繋がる。 ・今後も大阪フィルハーモニー会館を中心とした取組を展開し、会館への愛着が区民をはじめ様々な人に広げ本事業目的達成に繋げてほしい。
現代芸術振興事業 （ブレーカープロジェクト）	【事業実績など】 ・通年事業 旧今宮小学校「作業場」・「新・福寿荘」・「西成・子どもオーケストラ」 ・展覧会「花岡伸宏つくるということ」の開催 ・地域コーディネーターの発掘育成など 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・地域との連携・協働体制も着実に構築されており、地域型アートプロジェクトとしての長年にわたる活動の成果は確実に現れている。今年度は台風やコロナウイルスによって活動・企画の中止が複数あったことから、参加者数や企画実施回数など数値に頼らない評価方法がますます必要となってくるであろう。 ・レジデンス事業の成果展、花岡伸宏展では、地域交流のプロセスを展示・作品に直接反映しない（説明的でない）、芸術性としての質を重視した発表を選択して実施したことは、近年の当プロジェクトの活動傾向としては珍しく、今後のアートの扱い・企画の広がりが期待できる。 ・対外的な発信、市内部における蓄積資料の必要性という両側面から、活動の経過や成果を総括し、アーカイブとして比較的簡易な整理方法からでも取りまとめていくことが望ましい。 ・2020年度川村文化芸術振興財団ソーシャリー・エンゲイジド・アート支援助成プロジェクトに選定されたことは、これまで培われてきたノウハウが全国的にみても評価に値することを証明するものであり、大阪市の文化力をアピールする機会となるとともに、活動の継承・発展について改めて考える契機となることを期待する。